

⑥ 新穂高溪流保全工における安全対策

(株)高田組 右俣谷護岸工及び底張工等工事
(工期：平成22年10月30日
～平成23年7月15日)
現場代理人 竹田 淳
監理技術者 竹田 淳



1. はじめに

蒲田川上流の新穂高には奥飛騨を代表する観光名所、新穂高ロープウェイがあります。この新穂高を流れる右俣谷・左俣谷では、数年前から新穂高溪流保全工の工事を実施しています。新穂高溪流保全工は標高1000m以上の山間部での工事ですが、施工箇所が新穂高ロープウェイの目の前に位置するという条件もあり、観光客が減少する冬季間を中心に、春夏秋冬、一年間通じて工事を行っています。

2. 新穂高溪流保全工の概要及び本工事内容

新穂高溪流保全工とは、新穂高地区を流下している蒲田川および、その支流の右俣谷、左俣谷は川幅が狭いうえに、宿泊施設等が近接しているため土砂流出による被災の危険性が高い地区となっているので、地域の山岳景観、親水性等に配慮しつつ、土砂災害に対する安全性の確保を図る為川幅を広げ、異常な流出土砂をスムーズに下流に流下させるとともに、上流域の流出土砂の抑制を図る土砂災害防止施設整備工事があります。



本工事はこの新穂高溪流保全工の一部である、右俣谷・左俣谷合流点部で低水護岸・底張工事、右俣谷の湾曲部で高水護岸工事、左俣谷で仮締切工事、それと新穂高溪流保全工区間より上流部の右俣谷で砂防堰堤補修工事と広範囲で、一年間弱、工事を実施しました。私は以前にも新穂高溪流保全工の工事を約1年半させていただいたこともあり、この新穂高地区では季節ごとに気象条件・観光客数の変化が著しく、その時々に合わせての安全対策が必要でした。

3. 新穂高地区における季節ごとの安全対策

春季の安全対策

気象 3月中旬頃より最高気温が0以上となり作業がしやすくなるが、雪解けが始まる。気温が高めの降雨時には急な水位の上昇がある為、冬季にはあまり心配しなくてもよかった、作業終了時や休工日の重機械の退避場所は増水に備えた高台とする必要がある。

観光客 4月中旬までは少ない為、工事現場としては作業が行いやすい。しかし、GW中は非常に多くの人々が新穂高を訪れる為、工事を中止する事が多い。GW前には、安全設備の再点検・GW中には現場巡視が必要となる。



GW中、ロープウェイ駐車場は、観光バスや乗用車で満車になる。また、左俣谷側の駐車場利用者が、工事現場内の人道橋を通行する。

夏季の安全対策

気象 梅雨時期やゲリラ豪雨等により降雨量が非常に多くなり、仮締切りを越流するような、鉄砲水・土石流による危険が一年を通じ最も高くなる時期である。本工事は広範囲に工事箇所が分散していた為、各施工箇所毎に土石流対策設備（サイレン・警報機等）や避難場所を備えた。

気温は平地ほどではないが暑い日が続く為、現場には熱中症予防計やスポーツ飲料等を備え、熱中症対策を講じた。



3月上旬の左俣谷



増水時の左俣谷

観光客 GW後の観光客数は一旦少なくなるが、7月上旬からはまた増えだし、お盆時期はもちろん、学校が夏休みの間は平日でも多くの観光客が新穂高を訪れるため、第三者に対する注意が一番必要な時期である。右俣谷に隣接する宿泊施設も毎日満室状態なので、騒音・振動作業は早朝行わないようにするなどの配慮が必要であった。

夏季は登山者も多い。登山者が歩く林道は本工事の土砂運搬ルートだった為、登山者とすれ違う時には登山者が通り過ぎるまでDTは一旦停車することや、登山者が多い休日には土砂運搬を中止するなどの対策を行なった。

秋季の安全対策

気象 台風の影響などにより割合、作業中止日が多い時期だが、暑い夏が過ぎ作業を行うには良い時期である。台風が通過する前には工事看板の固定等、飛散物により第三者事故がおきないように念入りに点検を行った。

観光客 夏休みが終わると観光客数は若干減るものの紅葉時期が終わる10月下旬頃までは、まだまだ新穂高には多くの観光客が訪れます。

冬季の安全対策

気象 11月中旬になると最高気温が0以下になる日もでてきて、雪が降り始める。12月中旬から気温は常に零下になり積雪量も増えてくる。現場で作業するには非常に厳しい条件となり、寒さ対策、凍結・積雪対策が必要となる。除雪作業や養生作業が必要となってくる為、工事の進捗率は、通常の半分程度となる。



吹き溜まりでは 2m 近い積雪になる。



作業員にはカイロや長靴のインナー等を配布しました。



スリップ防止の為、融雪剤の散布が必要。



除雪時の目印として、工事用道路の路肩部にはポールを設置。

観光客 冬季間には観光客は激減し、人道橋も積雪で人が通ることもなく、工事への影響はほとんどなくなる。

冬場は誰も通ることがない人道橋、『幸橋』



4. まとめ

新穂高溪流保全工の工事はまだ数年続くとおもいますが、新穂高地区で工事を実施するにあたり、気象条件・観光客数等を考慮すると4月～6月・10月下旬～12月上旬がポイントとなり、この時期を有効に生かせるように工事する事で、工事の進捗率が上がるとともに、周辺観光施設への工事の影響が少なくなるような気がします。工事の発注・落札時期を考えると、速やかに工事着手出来なければこの時期を逃してしまうので、今後新穂高で工事させていただける機会があれば十分留意し工事を行いたいと思います。